

【実践例 掲載イメージ①】

A  保護者とどのように共通理解を図り、関わっていけばよいのでしょうか？

実践例1 面談や連絡帳を通して、保護者と情報共有し、本人・保護者の願いを汲みながら通級による指導を実施しましょう。



小5年

障害の種類・程度や状態等	知的発達に遅れはなく、自閉症の診断がある。他者の意図や感情の理解が苦手であり、クラスメイトとのコミュニケーションにおいてしばしばトラブルを起こすことがある。
通級の活用状況	自校通級45分×週2回（個別45分×週2回、2学期途中から個別の1回を小集団45分×週1回）
保護者の願い	相手の心情を考えた発言や行動ができるようになってほしい。

1. 本実践例の概要

実態把握の際に保護者と面談して情報を収集し、また、通級による指導の様子、指導・支援の結果の確認や日常の様子などについても、連絡帳等を工夫するなどして情報共有に努めた。保護者から聞き取った本児の好きなキャラクターを通級による指導に取り入れることで意欲を高めるなど、常に指導方法や内容について保護者と共有し、保護者の意向を聞きながら取り組んだ。感情のコントロール方法や声掛けの方法について、通常の学級においても取り組むことによって、通常の学級で感情を高ぶらせる回数は減り、クラスメイトと遊ぶ姿も多くみられるようになった。また、家庭で、学校であった出来事を楽しく話をするようになり、学校の様子について、連絡帳だけでなく、本児の言葉からもわかるようになったと保護者が喜んでいる。
※在籍学級担任や家庭との連携については第2章0ページ参照

2. 連携の実践

通級による指導の開始前	保護者とのやりとり	留意事項
	本児の状況把握のための聞き取り、指導方法の検討	
	<p>POINT! 子供の姿は場面によって様々です。特に家庭と在籍学級での様子については非常に重要な情報なので、可能な限り直接聞くなどして丁寧に情報を集めましょう。また、本児がどのような場面であればがんばることができるのか、好きなことなどの情報も大切な手立てのヒントとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取りをしたタイミング、方法（保護者面談の際の参加者・所要時間など具体的な様子、紙媒体でのやり取りがある場合はフォーマットの紹介） 聞き取りをした内容 指導方法について、保護者への説明 <p>POINT! 目標や指導内容を設定する際には、保護者の通級利用に対する思いなどを聞き取るとともに、本人から通級を利用することでどのような姿になりたいか聞き取ることも大切です。聞き取った内容を、教育としてどのように取り組むかを考えることは教師の重要な役割です。また、通級による指導を開始するに当たって、目標や手立て等について保護者と共有することも大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 忙しくて時間が取れない保護者への対応の方法 聞き取りに際してのポイント、留意事項（必ずしも協力的でない保護者の方もいる。）
	通級による指導にどう生かしたか	

	具体的な指導例を取り上げて記載	
通級による指導の開始後	保護者とのやりとり	留意事項
	通級による指導の様子、通常の学級や家庭における様子の共有	
	<p>POINT! 家庭と連携する際には、日常の様子を連絡帳等で、学期に一度程度、個別面談等で行うことが大切です。また、負担にならない程度に、家庭での様子も連絡帳に記入してもらおうとよいでしょう。これらの情報を在籍学級担任と共有することは大切ですが、どのような内容を共有するのかについては、保護者と相談しながら決めるとよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報共有の方法、機会（指導後、学期ごとなど。連絡帳などを活用していれば、フォーマットの紹介）、頻度 情報提供及び聞き取りをした内容 家庭での対応をお願いした事項（その決定方法） 	<ul style="list-style-type: none"> 各機会の情報共有、意向伺いの意図 保護者に指導の様子を伝える際のポイント 家庭における無理のない範囲での対応の見極め
	通級による指導にどう反映したか	
	具体的な指導例を取り上げて記載 (通常の学級においても支援を行った場合には、その点についても触れること)	
通級による指導の開始時	保護者とのやりとり	留意事項
	通常の学級への引継ぎ ※進級、進学時の引継ぎは別途記載	
	<p>POINT! 通級による指導を終了しても通常の学級における支援が必要な場合があります。通級による指導で効果的だった支援等を活用しますが、通常の学級で活用できるようアレンジすることが必要になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報共有の方法、機会 保護者の願いの把握 今後の支援体制についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 通級における指導の評価を保護者に伝える、また、保護者の願いを把握する際のポイント 学校における今後の支援体制を検討する際の保護者との関わり
	通常の学級における指導のフォローなどその後の対応	
	具体的な支援を取り上げて記載	

3. 引継ぎの際のポイント

- 次年度や進学時の引継ぎの際、保護者とのやり取りで留意する事項などポイントを記載

A  指導において、児童生徒と接する際にどのようなことに留意したらよいでしょうか？

実践例2 児童生徒の思いを引き出しながら課題を用意し、指導においては、目標に向けて、意欲が継続するような配慮、声掛けをしながら実施しましょう。



小5年

障害の種類・程度や状態等	知的発達に遅れはなく、自閉症の診断がある。他者の意図や感情の理解が苦手であり、クラスメイトとのコミュニケーションにおいてしばしばトラブルを起こすことがある。
通級の活用状況	自校通級45分×週2回（個別45分×週2回、2学期途中から個別の1回を小集団45分×週1回）
本人の思い・保護者の願い	クラスメイトと休み時間などに楽しく遊びたい。相手の心情を考えた発言や行動ができるようになってほしい。

1. 本実践例の概要

通級を利用することでどのような姿になりたいのか、得意なことや苦手なことなどを本人・保護者から聞き取り、目標設定や日々の課題設定、指導の流れに可能な範囲で反映した。目標を本人に分かりやすい内容にして共有することにより、通級に主体的に参加する意識を高めるようにした。また、選択する場面を設定したり、好きなことを取り入れたりするなどして、本人が参加しやすく、意欲が継続できるように配慮した。

2. 目標・指導内容・年間指導計画（年度当初作成例）

- (1) 目標
- 誘う、断る、励ます、説明する、質問するなど、人と関わるために必要なコミュニケーションの仕方を知り、通級指導担当教員や他の通級メンバーに対して、相手の心情を考えた発言や行動ができる。
 - 手先の巧緻性を高め、髪の毛を結んだり、靴紐やエプロンなどの衣服のひもを結んだり、ボタンなどの留め具を一人で止めることができる。
- (2) 指導内容
- 小集団の安心できるグループで、人と関わる自信と意欲を育てながら、話し合ったり協力したりしながら進める課題に取り組む。
 - 思いや願いを引き出しながら、年齢に見合った身だしなみや制作（裁縫など）など、手先の巧緻性を高める課題に取り組む。
 - 一週間の出来事をシンボルや簡単な絵などで視覚化しながら聞き取り気持ちや状況を整理しながら言語化する。

3. 指導略案

- (1) 今月の目標（5月の実践）
- 教師のメモや絵を見ながら、伝えたい内容や気持ちを時系列に沿って、話することができる。
 - 感情が高ぶっても、約束のメモを見直したり、教師の声かけで短時間で切り替えることができる。
 - 決まった時間細かい作業を続けることができる。
- (2) 指導の流れ

時間	活動内容	児童の様子	準備、支援、評価
5分	今日の活動内容の確認 • 流れを書いたホワイトボードでタイムスケジュールを確認する	POINT! 活動の流れについて事前に本人と相談する方法も考えられます。 • ホワイトボードを見なかったり、聞いていなかったりする。	• イラストを用いたり、終えたものには○をつけていくなど進捗も視覚的に分かるものを用意する。また、一緒に声に出して読むなどする。

POINT! カウンセリングマインドが基本ですが、「知りたい」という気持ちを前面に出して、聞き直したり正しい言い方を伝えたりしましょう。

10分	フリートーク（今週の出来事） ※タイムタイマーで時間を把握 • 今週一番印象に残っているエピソードについて話す。 • なかなかエピソードが出てこない。 • 時間軸がバラバラであったり、主語が頻りに変わったりする。	• 保護者や通常の学級担任からの聞き取りをもとに「日本代表のサッカーの試合があったよね。」などと興味のある話題を提供する。 • 聞き取りながら、ホワイトボードや紙に話した内容を書きとめ、登場人物、時系列を確認できるようにする。
13分	担当教師と二人で勝敗のあるゲームの実施 ※タイムタイマーで時間を把握 • ゲームの選択 神経衰弱 すごろく オセロ • ゲームの際の約束事を確認する。	• なかなか選ぶことができない。 • これまで実施した回数等から、教師が決めることも考えられる。 POINT! 運などが関係するゲームも入れ、勝敗が最後までわからないようにします。また、本人が選択することにより、取り組みやすくなります。 POINT! 約束を破ってから叱るのではなく、約束を守り続けられるように、約束をそっと指さすなどにより、意識が継続できるような手立てを実施します。
7分	順番を守る／「もう一回」「待った」など言葉で伝える／負けそうになって最後までする • ゲームの実施 • 手順を具体的に示す • 教師が、待ってほしいときや負けそうなどときの正しい伝え方のモデルを示す • ゲームの振り返り • 負けている時にも、途中で投げ出さずにゲームを続けることができた、など感想を話す。	• 約束は文字化（メモ）しておき、本児の様子を見ながら、随時確認する。 • 約束事が守れた時には、その場ですぐに褒める。 • 約束を守れなかった場合には、注意するのではなく、文字化したものを指さしたり、静かな声で確認したりする。 • 本児が気づいていない点にも触れ、頑張ったところを褒めるとともに、次回以降、さらに頑張れそうな点についても確認する。
5分	今日の振り返り • 各活動について、3段階（◎、○、△）で自己評価をする。 • 自己評価に悩んでいる様子。	• お楽しみタイム ※タイムタイマーで時間を把握 • 好きなアニメキャラクターの顔をアイロンビーズで作る。 POINT! 好きなアニメキャラクターを活用することで、苦手な細かい作業に取り組みやすくしています。 • 保護者や通常の学級担任から聞き取った情報を活用する。 • タイムスケジュールに沿って、「〇〇があったよね」などと声掛けをし、振り返りの手助けをする。 • 教師からの評価とその理由を伝え、自己評価と合わせて振り返る。

POINT! 自己評価と他者評価を比較することで、より正確な自己評価ができるようになります。特に自分自身が頑張ったと思う点を認めることが大切です。併せて、指導開始時点で、活動内容別にどれくらい頑張れるかを自己診断することも考えられます。

- (3) 指導の評価
- 通級担当者とのゲームは、不利な状況になっても、約束のメモを見るなどして感情をコントロールできるようになったことから、9月から少人数のグループで実施することとした。